

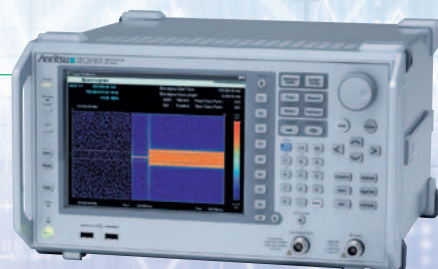
電源On/Off時の不具合を検証

MS2690A/91A/92A

シグナルアナライザ

主な特長

- ① 過渡現象を確実に捉える大容量メモリ
- ② 3次元多面解析とスペクトログラム
- ③ 不具合を見逃さないコマ送り再生
- ④ 不具合信号を取り込み信号発生器から再生出力



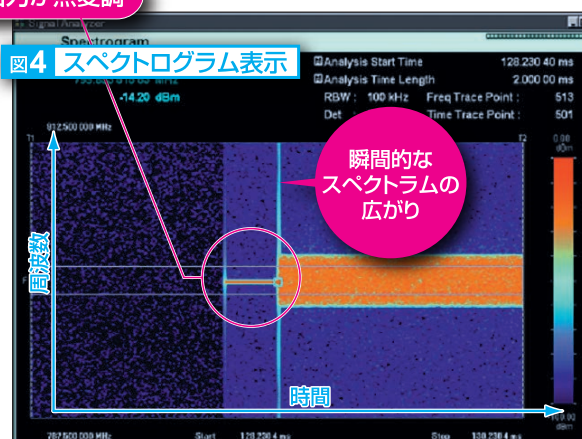
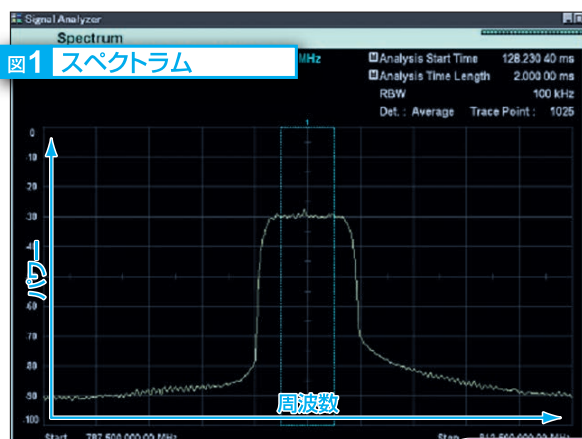
シグナルアナライザ
MS2690A/91A/92A

① 過渡現象を確実に捉える大容量メモリ

最大125MHz帯域の信号を取りこぼさなく長時間取り込める128Msampleの大容量メモリを搭載しています。突発的な不具合や電源On/Off時に発生しやすい不具合を確実に捉えます。

② 3次元多面解析とスペクトログラム

取り込んだRF信号データを、「スペクトラム(図1)」、「パワー vs. 時間(図2)」、「周波数 vs. 時間(図3)」など、複数の視点から現象を検証できます。また、周波数、時間、パワーの3つの情報を一度に表示する「スペクトログラム表示(図4)」により、スペクトラムの振る舞いが直感的に確認できます。下図は、電源On時に出力が無変調となった後、瞬間的にスペクトラムが広がる不具合を捉えています。



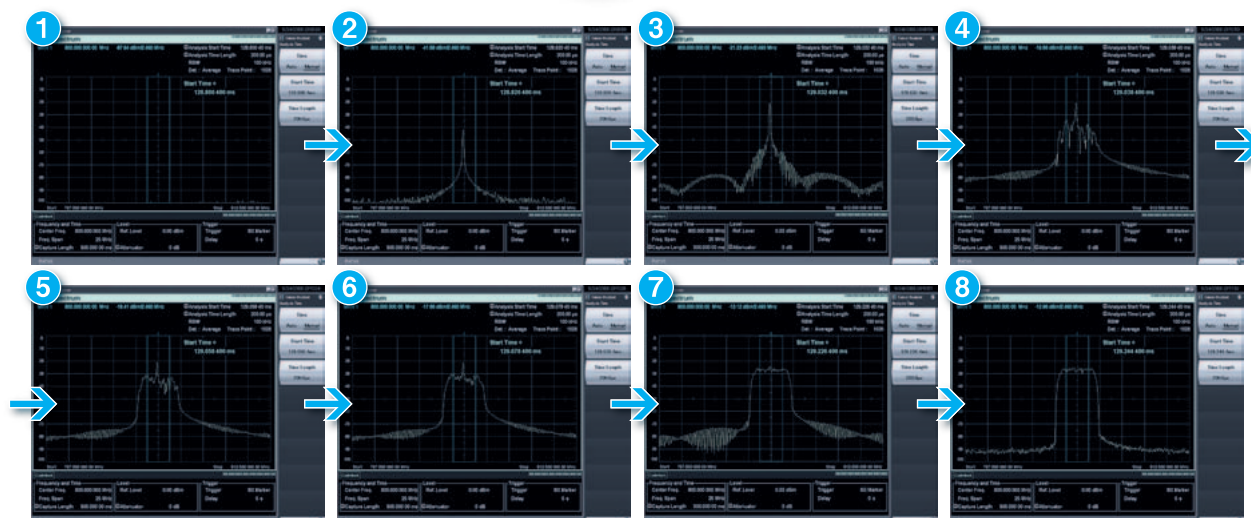
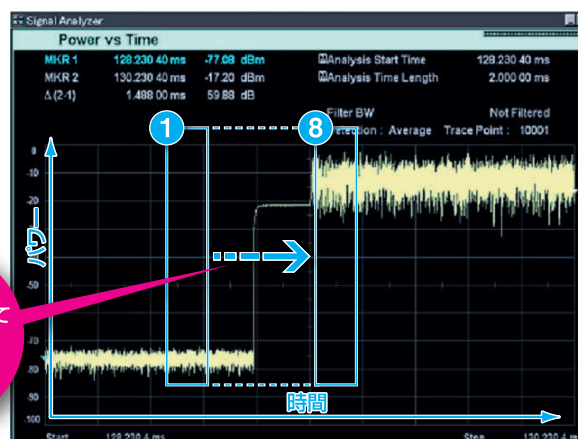
電源On直後の出力が無変調

瞬間的な
スペクトラムの
広がり

③ 不具合を見逃さないコマ送り再生

取り込んだRF信号に対して、解析区間を変えていくことにより、バースト信号の過渡応答や不要スプリアスの発生などを高時間分解能でコマ送りに再生できます。

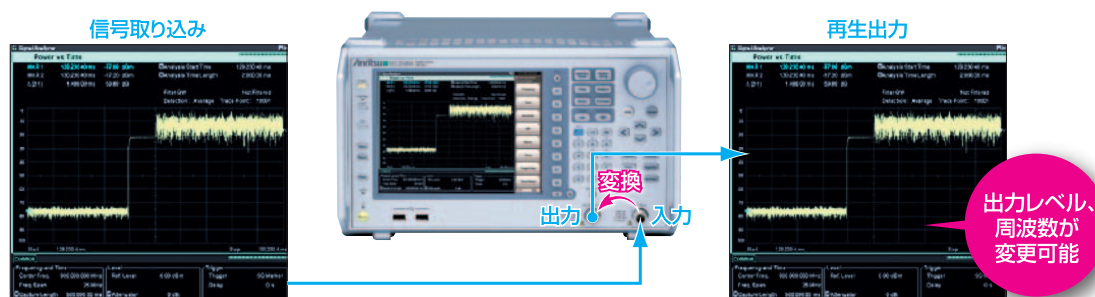
電源On時の無変調信号出力の確認や、スペクトラム波形が安定するまでの経過を何度でも確認できるため、不具合原因の特定に役立ちます。



④ 信号を取り込み信号発生器から再生出力

取り込んだRF信号を、内蔵のベクトル信号発生器用の波形パターンに変換して、いつでも再生出力ができます。

一度取り込んだ不具合信号を何度も繰り返し再現できるため、原因究明および不具合解消の工数を大幅に低減できます。



オーダリングインフォメーション(抜粋)

本体	MS2690A	シグナル アナライザ (50Hz～6.0GHz)
	MS2691A	シグナル アナライザ (50Hz～13.5GHz)
	MS2692A	シグナル アナライザ (50Hz～26.5GHz)
ハードウェアオプション	MS2690A/91A/92A-020	ベクトル信号発生器 (125MHz～6.0GHz)
	MS2690A/91A/92A-077	解析帯域幅拡張 62.5MHz
	MS2690A/91A/92A-078	解析帯域幅拡張 125MHz (MS269xA-077が必要)